

ZSSSK

生活科・総合教育だより

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会報

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局 東京都渋谷区立神南小学校
東京都渋谷区宇田川町5-1
TEL 03-3464-0659

発行人 齋藤 等
編集人 小高 和子

第29回 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会「千葉大会」を振り返って

大会実行委員長 小山光子
(富里市立富里第一小学校)

令和2年11月13日(金)に千葉市において、第29回全国・第22回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会千葉大会が行われました。今回は、新型コロナウイルスの感染症の世界的拡大という、これまで経験したことのない未知の課題に直面する中で、予定されていた授業公開(千葉市立幕張小学校・千葉市立おゆみ野南小学校)が実施できませんでした。しかし、千葉大会には、全国の皆さんと思いを共有し、生活科と総合的な学習の充実を図り、未来にはばたき未来を創る子供たちを育てていく教育活動のあり方を明らかにしていく役割や意義があると考え、ウェブを通して全国に発信するという新しい試みで開催することとしました。大会には、全国各地から500名を上回る多数の参加をいただきました。実行委員会を代表して心より感謝申し上げます。

1. はばたけ！未来を創る子供たち

～探究を見つめなおし 探究を創造する～

小学校では、本年度から新学習指導要領が全面実施となり、各学校では、変化が激しく厳しい時代を生き抜く子供たちに、新しい時代を生きる上で必要な資質・能力の育成を目指した授業改善がスタートする予定でした。しかし、本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により全国の学校で長期にわたる休校があり、その後地域に応じた学校の再開がありました。様々な見通しが不透明な今、各学校では工夫しながら教育課程を実施している状況が続いています。その様な中で、今学校に求められているのは、新しい生活様式における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善です。この「主体的・対話的で深い学び」の実現については、目の前に広がる未知の状況や問題を解決するために、自分と異なる他者との学び合いや発展的に繰り返される探究的な学習、協働的な学びが必要になってきます。さらに、身につけた知識や技能を活用したり、発揮したりして関連づけることも大切になってきます。

今回、千葉大会の主題を「はばたけ！未来を創る

子供たち」～探究を見つめなおし 探究を創造する～としました。千葉県の研究の根幹は「探究」の実現です。「探究」とは、物事の本質を探って極めようとする普遍的な営みです。それは、新学習指導要領の目指すものであり、これまでの生活科や総合的な学習の時間で築き上げてきたものです。本大会では、探究を見つめなおし、これまでの実践を精査するとともに、改善・アップデートを重ね一層の充実を図っていくこととしました。

2. シンポジウム

(パネリスト)

- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 渋谷 一典 様
- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 加藤 智 様

(コーディネーター)

- ・國學院大學人間開発学部初等教育学科教授 田村 学 様

(テーマ)

「はばたけ！未来を創る子供たち」

～探究を見つめなおし 探究を創造する～

新しい生活様式のもと、今回の改訂で掲げられた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や千葉大会の研究の根幹である「探究」等についてご示唆をいただきました。

3. 課題別分科会

全国から優れた研究発表がありました。また、当日は3つの視点(計画・指導・評価)から研究協議を行いました。活発な討議がなされ会員相互で思いを共有することができました。

千葉大会は、新しい試みによるオンラインでの開催になりましたが、皆様方のおかげで内容の濃い一日となりました。ご助言いただいた文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官渋谷一典様、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官加藤智様、國學院大學人間開発学部初等教育学科教授田村学様、前文教大学教授嶋野道弘様、大会運営にご支援ご協力をいただきましたすべての皆様方に御礼申し上げます。また、今後も更なる生活科・総合の充実に向け、努力してまいりたいと思います。

本当にありがとうございました。

第23回近畿地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会「滋賀大会」 中止

大会主題

「つながる 広がる 深まる 気づきや思いをつなげる教師のかかわり～」

近畿地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

会長 八 木 芳 良

「滋賀県の状況」

滋賀県は、近畿地方の北東部にあたり、日本一大きな湖であるびわ湖が中央にあります。223の小学校と100の中学校があり、湖南地域と呼ばれる南側は京都や大阪のベッドタウンとして人口が集中し増加する一方、その他の地域は統廃合が進み、学校数は減ってきています。また、県内でも北と南では、気候が異なり、近年暖冬になっているとはいえ、湖北地方の積雪は湖南地方の比ではありません。また他県同様、大量退職の波が収まる時を迎えはじめ、若手教員の授業力向上と若手を育てる中核教員の人員不足が課題となっています。

滋賀県では、市町ごとに教科・領域別の教育研究会を組織しています。生活科と総合的な学習の部会はそのそれぞれが独立していますが、全国的な流れを踏まえ、県の総会や協議会・発表大会は、令和元年度より合同で行うようにしました。そのため、県内のブロック数を7つに統一し、運営が滑らかに行えるように改善してきました。

県生活科部会の一年間の主な活動は、年2回の総会・夏季研修会・半日の授業研究協議会（3年に1回の全日の発表大会）があります。また、各市町で研究授業を行い、その成果を毎年研究紀要として刊行しています。滋賀県の生活科部会は、生活科創設期から研究推進校などに当たっている学校の先進的な研究ではなく、一般の学校でそれぞれの児童・地域に根ざした授業づくりと教員誰もが取り組める生活科をめざし、裾野を広げる活動を神髄としてやってきました。

これからの社会において、人間は人間らしい幸せのあり方を模索し、誰もが共存共栄できる世の中を構築していかなければいけません。そういう近未来の担い手となる子どもたちを育成するため学習指導要領が改訂され2020年度（令和2年度）から完全実施されることになりました。

「主体的・対話的で深い学びの育成（アクティブ・ラーニング）」の視点で学習過程の改善を問われ、どのように学ぶかを考えなければいけません。また、変化が激しく先を見通すことが難しいこれからの社会において、子どもたちに必要なことは実生活との

関わりの中でより具体的な体験活動を通じ、教科等を横断的に学ぶことです。その中心となり基盤となるのが生活科であり、総合的な学習の時間です。各学校で目標・内容を設定し、探究過程に取り組んできたことは、「カリキュラム・マネジメント」の先駆ともいえます。つまり、新しい学習の中核となるのが生活科であり総合的な学習の時間といえます。

「近畿大会」について

今年度、滋賀県では生活科部会と総合的な学習部会の研究主題を「つながる 広がる 深まる ～気づきや思いをつなげる教師のかかわり～」と共通にし、学年を貫く子どもの学びを捉えるようにしました。これは、自らの思いや願いを実現していく生活科、実生活の中から自ら見いだした課題の解決に向かって探究する総合的な学習の時間、それぞれの学びの質を高めていくことにつながると考えます。

また、研究において単元を構成していく上で大切にしたい3視点を設定し、取り組んでいます。

①しっかりしたねらいをもつ。

②生活科：ゆったりした場を与える。

総 合：協同的に取り組む学習活動

③主体的・対話的で深い学びにつながる教師の手立て

今年度の近畿地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会滋賀大会大会では、小学校の取組だけでなく分科会で中学校の総合的な学習の時間の提案もさせていただく予定でした。県でも初めての取組で中学校の先生方の協力を得ながら小中9年間を見通した新たな試みでした。残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面による研究発表とさせていただくことになりました。生活科・総合的な学習の時間の授業を観ていただけなかったのは、大変残念なことではありましたが、少しでも冊子において滋賀県の取組を参照いただき、皆様の教育活動の一助になれば幸いと考えます。

最後になりましたが、授業研究および冊子制作に当たり、近畿の他府県の役員の先生方及び県内外の分科会原稿を執筆いただいた先生方、ご指導とご支援をいただきました滋賀県教育委員会、そして本部会を支えてくださった生活科・総合的な時間教育部会の支部長先生、研究員の先生方、研究企画委員の先生等、運営にご協力くださった方々に心から感謝申しあげます。

今後も滋賀県教育研究協議会、近畿地区生活科・総合的な学習教育研究協議会そして全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会が、未来を担う子どもたちの指針となり、実践や研究が更に深化・充実していくよう祈念するとともに精進して参ります。

苦渋の決断、活動休止 しっかりと充電の一年

北海道生活科・総合的な学習教育連盟

委員長 吉田 信興
(北海道札幌市立旭小学校長)

1 令和元年度の活動報告

元年度は、本会にとって学会全国大会後のリ・スタートの年となりました。新学習指導要領全面实施の前年度ということもあり、大きく動き出す1年でした。全道宿泊研修会は7月28日(日)29日(月)、東川町の東川小学校と森の湯「花神楽」を会場に、全道研究大会は10月14日(木)15日(金)に旭川トーヨーホテル、旭川市立向陵小学校を会場に行われました。ともに北海道をイメージする言葉である「北の大地」＝「上川管内」発の本会のリ・スタートでありました。宿泊研修会は東川小学校の全面的なご協力のもとに質も量も満たされる内容となり大変充実し、研究大会も同様に様々な校種の授業公開と授業分科会、そして特別分科会として京都堀川高等学校の紀平武宏先生による高校の総合的な探究の時間の提言と実践交流があり、今後の本会の研究活動に勢いを与えるものでした。

2 令和2年度活動報告(予定報告を含む)

この勢いのままに、2年度は本会が創立30周年を迎えることもあり、記念の冠をつけた、札幌地区での全道宿泊研修会を7月23日、24日に、釧路市での全道(北海道ブロック)研究大会を10月2日に開催し、新学習指導要領元年を駆け抜けようと思っておりました。しかしながら、本年2月末から感染が拡大した新型コロナウイルスの影響が大きく、4月の全道総会よりすべての活動を1年間休止するという、いまだかつて経験のない苦渋の決断を迫られ、残念な結果となりました。

そのような中でしたが、全国大会千葉大会において北海道はオンラインという形式で課題別分科会にて、提言させていただきました。ZoomによるWeb研修をできる学校内の環境整備が札幌市ではあまり整っていない中でしたが、助言者、司会者を含めた3名セットでの役割を果たすことができるとともに、本会にも大きな成果を得られるすばらしい機会となりました。感謝申し上げます。

そして12月18日と21日には、北海道内をZoomによって結ぶWeb会議を2度行いました。18日は各地

区の会長・委員長の方々、21日は事務局長の方々と
の会議でした。対面ではありませんが皆さんの顔を見ながら状況報告ができたことは本当にうれしいことでした。1年に2～3度と顔を合わせていた「仲の良い仲間たち」ですので、一層「会いたい」気持ちが高まりました。

この中で、全道(北海道ブロック)研究大会の令和3年度函館、4年度オホーツク、5年度札幌、6年度旭川の開催を確認したほか、3年度総会が開催できれば30周年記念式典の色をつける内容にすること、記念誌を作成することも確認いたしました。

3 地区の学びは止まらずに

Web会議で地区から生活・総合の活動状況を伺ったところ、

- 「生活・総合の学習の進め方」を研究部が中心となって作成し、全市に発信した。(札幌)
- 評価について等ZOOMによる研修会を2回行った。(旭川)
- 3年度全道大会会場校の弥生小学校へ研究部が何度も足を運び校内研究(授業も3本実施)を進めている。(函館)
- 各校での実践を記録化し蓄積している。教育課程の見直しについて共有。(上川)

このような活動が行われていました。またうれしい報告としては、全道会員は「この時期だからこそできる生活・総合を実践し成果、課題を蓄積している」という声を聞いたことです。北海道としての会の動きは休止しておりますが地区の学びは止まらない…ありがたいことです。

4 対象との応答関係を強める生活・総合

私は2年度の本会の広報誌の巻頭言で次のように書きました。「●●だからやっちはいけません」「××は危険だから静かにしていきましょう」ではなく、子どもたちも新型コロナの危険性を理解した上で、さらに新生活様式をしっかりと取り入れながら、自然環境と社会環境を対象にして、思い願いをもってかわる、繰り返しかかわる、そして対象から返ってくることにおもしろさや喜びを感じ、さらにかかわっていくという「主体性」を子どもに身に着ける絶好のチャンスであります。人にかかわることに「距離」を求められていますが、その分、対象との「距離」を縮めて、対象との応答関係を強める生活・総合にしてほしい…と。

本会は1年間しっかりと充電しています。3年度パワー全開で活動を再開します。頑張ります!!

コロナ禍における生活・総合の推進

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

会長 齋藤 等

(東京都渋谷区立神南小学校長)

本年度は、新学習指導要領の全面実施の年であり、本来ならば、生活と総合的な学習の時間の更なる充実によって、「主体的・対話的で、深い学び」などの授業改善が進むことが期待されていました。

しかし、コロナ禍による臨時休業や分散登校をはじめ、学校再開後も授業や学校生活には様々な制約や配慮が必要となりました。とりわけ地域の探検や探究活動、学校内外の人との触れ合いなど、直接の体験や活動を大切にする生活・総合にとっては、これまで積み上げてきた学習活動がやりにくい困難な状況となり、現在もそれが続いています。このような中ですが、全国の各学校では、見かけは例年と違っていても、生活・総合の本来の趣旨を生かした学習活動を工夫し推進しており、そうした情報発信には頼もしさを感じます。

コロナ禍のマイナス面は多々ありますが、学校のICT環境が整備され、児童のICT利活用と教員同士の情報交換やオンライン研修会などが前進したというプラス面も感じた一年でした。

さて、こうした状況の中、本研究協議会の全国大会（千葉大会）は、関係者の皆様のご尽力により、初のオンライン大会として、11月13日に500名を超える参加者による開催となりました。当初予定していた公開授業は残念ながら実施できませんでしたが、田村先生、渋谷先生、加藤先生によるシンポジウムや課題別分科会における全国各地の先生方による活発な意見交換や情報発信等の様子から、コロナ禍における生活・総合を更に推進していこうとする思いを強くしたものと存じます。

また、夕刻からの全国理事会もオンラインで開催しました。7月に実施できずに紙上開催とした第1回全国理事会の議事内容の再確認を行ったほか、本年度開催地の小山校長からの謝辞や次年度開催地の大阪市の池田校長からの挨拶をお伝えできました。各地方ブロック大会も本年度は中止や紙上開催となりましたが、令和4年度の開催日程なども確認でき、前に進めました。しかし、現段階ではコロナ禍の状況が不透明ですので、次年度の大阪大会は、集合型とオンライン開催の両方の準備を進めていただいているところです。

引き続き、本研究協議会の皆様が連携・協力し、生活科・総合的な学習の時間を中心とした教育活動の充実に力を注ぎ、未来に生きる子供たちの資質・能力の育成に向け、共に頑張ってまいりましょう。よろしくお願いいたします。

＜事務局だより＞

全国理事会報告

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局長 小林 佳世

(東京都世田谷区立明正小学校長)

例年、全国理事会は年間2回開催します。第1回理事会は例年7月の第1金曜日午後に東京で行い、年間の活動計画や予算案の検討、全国大会・地区大会の案内、情報交換、記念講演会等を実施しています。第2回理事会は、全国大会の1日目に情報提供・情報交換を中心に実施します。

令和2年度は、第1回は紙面にて実施、第2回は千葉大会にてオンライン開催をいたしました。

本年度は、第1回全国理事会資料の送付に際し、会則の規約一部改正を事務局から皆様にご提案し、承認を得て7月3日より変更の運びとなりました。主な改正点は、組織と会費徴収について現状との整合性をとった記載にしたことです。会則に続き、全国大会・各ブロック大会の日程の決定について内規を示すとともに、文部科学省の後援名義申請についての説明の頁を加えました。

令和3年度は、北海道ブロックは函館大会、東北ブロックは宮城大会、関東ブロックは栃木大会、近畿大会は大阪大会（全国大会を兼ねる）、中国ブロックは岡山大会、九州ブロックは長崎大会が予定されています。四国ブロックは令和4年度に香川大会が予定されています。

令和3年度全国理事会のご案内

■令和3年度の第1回全国理事会は、以下のとおり開催いたしますので、ご予約おきいただきますようお願いいたします。理事交代予定の都道府県におかれましては、確実な引継ぎをお願いするとともに、新理事名・所属校・連絡先等の情報について3月中に事務局までご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

(メールアドレス kou052@setagaya.ed.jp)

日時：令和3年7月2日(金)

全国理事会・記念講演 14:00～16:45

情報交換の会 17:00～19:00

会場：東京ガーデンパレス 3階白鳳・鶴

内容（予定）：前年度事業報告・決算報告

役員案・事業計画・予算案審議

新会長及び全国大会開催県挨拶

ブロック別情報交換及び全体会

記念講演（講師：教科調査官）15:30～